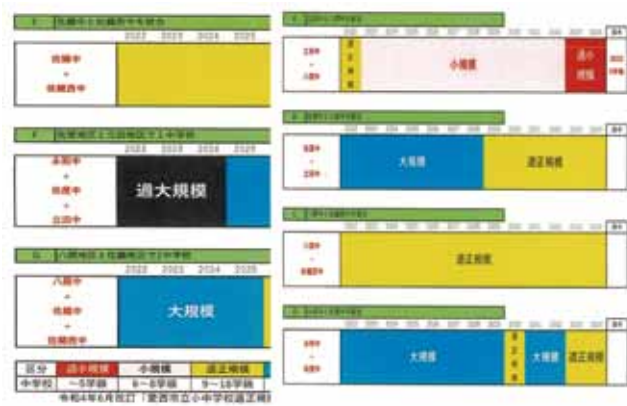


学校規模適正化 今後の展望は

原 裕司議員

学校の設置「学びや育ち」を最優先
教育長



▲中学校の規模適正化から考える組み合わせ

問 全国的にも教員不足は課題だ。過小規模校の八開中学校では、教諭配置数も少ない状況だ。この問題点や対応は。

答 学級数に応じた教諭配置が定められており、専任教科以外の授業を受け持たなければならぬ状況となる。最も有効な手段は学校規模の適正化であり、生徒の学習環境へも早期の学校規模適正化が必要だ。

問 小中学校適正規模等並びに老朽化対策検討協議会で第3回に協議された内容は。

答 中学校における統合として、7通りの組み合わせから、優先して取り組むべき2つの組み合わせを選択した。

問 具体的な組み合わせは。

答 当面の課題を解決していくためには、段階的に進めるべきとの意見が

ら、佐屋中学校と立田中学校、八開中学校と佐織西中学校の統合案が現実的な案として承諾された。

問 協議の中で、本市の南北それぞれに各1校とする意見もあるが、大規模校、適正規模校となる組み合わせは承認されたのか。

答 将来的には目指す方向性であるが、現時点の統合では、過大規模校となることもあり、2校の組み合わせを進めていく。

問 今までの総括と今後の展望について教育長の考えは。

答 学校規模適正化を進めるにあたっては、老朽化対策、防災、地域コミュニティ等、地域における学校の存在意義等々、重要な課題が山積している。しかし、学校設置の最大の受益者は子どもたちであり、彼らの「学びや育ち」を最優先することを、地域とともに共有し、進めていきたい。

問 保護者や地域住民の理解を得ることが重要な。今後の説明は。

答 市全体の問題として、幅広く情報提供していく。地区検討協議会の中で市民等の意見を聞きながら必要に応じて、基本計画を修正していく。